

発見!

# 牛久のお宝

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

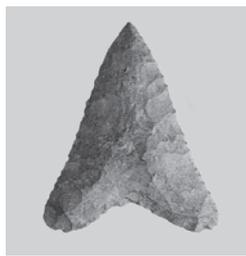
## 第23回 縄文時代の落とし穴

— 東山遺跡(ひたち野西1丁目) —



落とし穴

東山遺跡は、平成4～6年に土地区画整理事業に伴って発掘調査が行われ、縄文時代の落とし穴が見つかりました。落とし穴は、シカやイノシシなどの獲物を捕らえるためのものです。規模は長さ約3・4m、幅約0・6m、深さ約1mで、一度落ちたら出られないような形になっていました。動物はそれぞれの習性によって餌をとる場所や水を飲む場所が決まっています、落とし穴は獣がいつも通る道に間隔をあけて掘られていたと思われる。



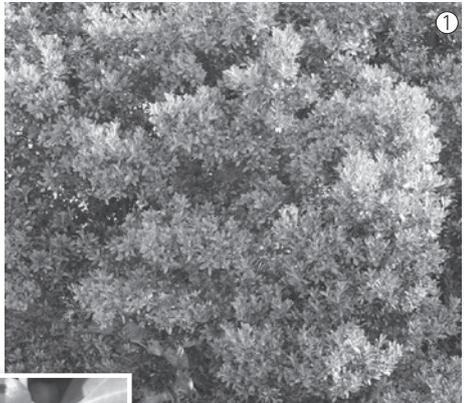
石鏃(長さ2.8cm)

他の遺跡で発見された落とし穴には、その存在を隠すために枝葉で覆った痕跡が残るものや、落ちた獣を確実に仕留めるために底に杭を打ち込んだものもあります。東山遺跡では石鏃(矢じり)も数多く見つかっており、縄文時代の人びとが弓矢や落とし穴を用いて狩を行っていたことがうかがえます。

# 里山の樹木

問 都市計画課  
☎内線2524

## 第60回 モチノキ



①結実期の樹冠:牛久町個人屋敷(平成24年10月26日撮影)  
②果実:牛久駅前交番南側(平成23年11月23日撮影)

モチノキ科モチノキ属の常緑広葉樹。小高木から高木(写真①)で、東北地方南部から沖縄にかけて分布します。牛久では牛久沼東斜面の照葉樹林に自生するほか、庭木として栽植されています。太い幹が

直立し、樹皮は灰褐色で滑らか。雌雄異株で、4月、葉腋に黄緑色の小花を咲かせ、10月から12月に径1cmほど、球形で4個の種子の入った赤い果実を付けます(写真②)。葉は互生し、葉身は長さ4から7cm、楕円形で厚く革質で光沢があります。冬でも青々としているため、城中町の旧家では火災の延焼防止の高生垣にしばしば使われています。和名は樹皮から鳥もちを作ったことに由来します。  
※牛久の里山樹木ハンドブック70ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。  
【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章 秋山侃 写真①戸塚昌宏 ②渡辺泰)

## 文芸さろん | 師走 |

|                  |       |
|------------------|-------|
| 初霜やモズの一声朝をさる     | 神田さん  |
| 熱燗に河童大根おでん鍋      | 長沢さん  |
| 老いた木に柿の実一つ残りけり   | 月田勉さん |
| 新米を土鍋で炊いて焦げ美味し   | やべっち  |
| 枯薄どこまでつづく土手の道    | 宮内さん  |
| 朝陽さす日溜りの車庫子ねこたち  | 和多田さん |
| 布団干しフカフカになりあたたかい | 月田さん  |
| 裏山に栗を拾って渋皮煮      | 草葉    |
| 心もほっこり秋の手仕事      |       |
| 師走きて心を鬼に新年を      |       |
| 笑いで至福迎える準備       | わだちゃん |

### 〈次回募集テーマは「冬」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など  
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1  
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512  
☎kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp  
【記載事項】作品、氏名、電話番号  
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。

『牛久市版レットデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物』  
販売中 ※お求めは都市計画課まで(1,350円)